

○佐野内閣府知財事務局次長 定刻より少し早うございますが、全員御参集いただきましたので、ただいまから第5回「クールジャパン戦略会議」を開催いたします。

初めに、高市クールジャパン戦略担当大臣から御挨拶をお願いいたします。

○高市クールジャパン戦略担当大臣 こんにちは。各府省庁で御活躍いただいております副大臣、政務官の皆様には、大変御多用のところ、御出席ありがとうございます。

関係省庁にも御協力いただきまして、今月4日に知的財産戦略本部におきまして、4年半ぶりとなりますが、「新たなクールジャパン戦略」を策定いたしました。

今回の戦略では、コンテンツ、インバウンド、食など、関連産業の海外展開を2033年に50兆円以上とする目標を新たに設定しました。

この目標達成のためには、関係府省庁の施策について、政府一体となって、着実に実行していくことが重要でございます。

本日、関係府省庁において、特に注力しておられる取組をハイレベルで共有して、府省庁間の連携強化を図りたいということと、今後のPDCAを回していくためのキックオフとしたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

ありがとうございます。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

それでは、議題に入りたいと思います。

まず、内閣府知的財産戦略推進事務局より、資料1に基づきまして、「新たなクールジャパン戦略」の概要について簡単に御説明させていただきます。

1 ページ目を御覧ください。先ほど大臣からもありましたとおり、2033年までに、コンテンツ、食、ファッション、化粧品等の海外展開、それから、インバウンドの外国人旅行消費の合計を50兆円以上とする目標を掲げております。

その下でございますけれども、今後、コンテンツに関する官民協議会を立ち上げまして、コンテンツ産業に関する取組を官民で議論しながら推進していくことにしております。

次に、2 ページ目を御覧ください。クリエイターの発掘・育成、労働環境の整備など、クリエイターの活動環境の整備について取り組んでいくことが大きな柱となっております。

その下でございますけれども、高付加価値化によりまして、国際水準ベースで高い収益を上げて、更なる再投資につなげていくサイクルを構築していくことも大きな柱になってございます。

続きまして、3 ページ目を御覧ください。「アニメ／マンガ」、「食」、「インバウンド」など、分野横断・連携の取組を着実に進めていく必要があります。

分野連携しながら、日本ファンの拡大に向けまして、様々な海外でのイベント、さらには来年の大阪・関西万博も契機としまして、日本の魅力を世界に総合的に発信していくこ

ととしております。

4 ページ目を御覧ください。今、大臣からも話がございましたけれども、以上につきまして、今後、今回定めたKPIによりまして進捗状況をフォローしまして、PDCAサイクルを回しながら関係府省庁と連携して進めてまいりたいと考えてございます。

最後の5 ページ目は、クールジャパン関連での大阪・関西万博での取組を記載させていただいております。

事務局からの説明は以上でございます。

続きまして、「新たなクールジャパン戦略」に関連する取組について、関係省庁より発表をお願いしたいと思います。

まずは、クリエイター支援、海外展開の支援などにつきまして、文部科学省、経済産業省、総務省より順番に発表していただければと思います。

最初に、文部科学省よりお願いいたします。

○本田文部科学大臣政務官 文部科学大臣政務官の本田颯子でございます。それでは、資料2で説明させていただきます。

日本文化が世界で評価を得ているのは、独自の文化的土壌で、多様なクリエイターなどが独創的アイデアに基づき自由に創造し、独特の世界観と高い質を持ってインパクトを与えているからと考えております。

文化庁は、1968年から約60年にわたり、目利きとして若い才能を見だし、創造の機会を提供してまいりました。1 ページの戦略全体構想でございますが、昨年の秋に創設されたクリエイター支援基金を通じ、世界が注目する舞台にまで、卓越したクリエイター等を、複数年度にわたり戦略的に支援し、経産省や外務省と連携して海外展開を図ってまいります。

2 ページ目です。海外展開の方向性でございます。同基金により、具体的には、1. 海外ニーズを踏まえた若手育成、2. 世界的認知度が高い場での評価獲得、3. ネットワーク形成を支援します。また、「骨太2024」を踏まえ、今後、文科省と経産省の関連施策を基金に統合し、一貫的で強力な支援を行ってまいります。

3 ページ、クリエイター等育成事業の採択状況でございます。先日、120件の応募から29件を選定しました。アニメ制作会社同士が連携した取組、海外出版社等の目利きを受けた若手漫画家の海外展開、名作映画等を題材にした新作文楽の海外上演など、卓越した取組、従来では申請がなかった取組を積極的に採択しております。

4 ページです。今後の海外展開・国内外の発信の強化について、基金以外にも、メディア芸術ナショナルセンター構想の推進や、未来のトップアーティストの活動支援等を進めてまいります。

5 ページ目です。取引等の適正化とDX時代への対応につきましては、相談窓口の体制強化や、文化芸術団体の機能等の対応を進め、しっかりと進めてまいります。

以上でございます。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

次に、経済産業省からお願いいたします。

○吉田経済産業大臣政務官 経済産業大臣政務官の吉田でございます。私からは、コンテンツ産業の海外展開支援やクリエイター支援の取組と、海外需要開拓支援機構について御報告申し上げます。

今般決定された「新たなクールジャパン戦略」において、コンテンツ産業をはじめとするクールジャパン関連産業の海外展開に係る目標が設定されているところ、経済産業省としても、その実現に向けて、令和5年度補正予算を活用し、海外展開支援に取り組んでおります。

まずは、資料3の4ページを御覧ください。具体的には、コンテンツ産業向けのJLOX+補助金を通じて、コンテンツ制作におけるデジタル技術活用への支援、国際的に競争力を有する高品質な映像作品への制作費支援、海外制作会社の国内ロケ撮影へのインセンティブ、海外展開における翻訳・吹き替えや見本市等への出展などの支援などを実施しております。

次に、5ページを御覧ください。先ほどの取組に併せて、JETROの海外拠点におけるコンテンツ専門人材の配置や、コアネットワーク構築などを通じて、事業者の海外進出支援機能の強化にも取り組んでまいります。

6ページ目を御覧ください。クリエイター支援に関しては、特にデジタル技術を活用して新たな創作を行うクリエイターに対するメンターによる伴走支援や発表の場の確保などにも取り組んでまいります。

続けて、海外需要開拓支援機構の現状について御報告申し上げます。8ページ目を御覧ください。

当機構は、日本の生活文化の魅力を生かし、海外需要の開拓を行う事業者等に対し、民間だけでは十分に資金が供給されない中で、呼び水となるリスクマネー供給等の支援を行ってまいりました。

9ページ目を御覧ください。これまでに、63件に対し、1428億円の投資を行うことで、民間企業等から2倍以上の協調投融資を誘発しているほか、投資先企業を通じた他の企業の海外需要獲得への貢献等の政策的意義も果たしております。

収益性につきましては、10ページ目を御覧ください。2023年度末の累積損益はマイナス398億円となっており、計画額マイナス407億円を9億円上回る結果となりました。

引き続き、政策目的の実現を前提に、経営改善に取り組みながら、堅実な投資を行っていくとともに、経産省としてもしっかりと監督してまいります。

最後に、経済産業省において実施しておりますこれら取組については、関係省庁の皆様と密に連携しながら進めていくことが重要と考えております。今後とも引き続き、更なる連携促進に向けて、お力添えいただきますようよろしくお願い申し上げます。

私からは以上です。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

次に、総務省よりお願いいたします。

○西田総務大臣政務官 総務大臣政務官の西田でございます。放送コンテンツの活用によるクールジャパン戦略の推進について御説明申し上げます。

資料4の1ページを御覧ください。放送コンテンツは、12兆円規模を誇る日本のコンテンツ市場において約3割を占めており、総務省では、放送コンテンツの海外売上高を2025年度までに対2020年度比で1.5倍に増加させることを目標としております。

続きまして、2ページを御覧いただきたいと思います。総務省ではこれまで、地方公共団体と放送事業者等が連携し、地域の自然や文化、特産品等といった魅力を伝えるコンテンツを共同で作成して、海外で発信する取組を支援してきたところでございます。

最後に、3ページを御覧ください。総務省の今後の取組でございます。

「新たなクールジャパン戦略」を踏まえ、海外展開を加速すべく、4KやVFXを用いた高品質なコンテンツの制作力強化や、製作ノウハウ習得のための人材育成を支援してまいります。

また、放送コンテンツの海外への流通を拡大するため、流通プラットフォームの機能強化や、国際見本市での出展等を支援してまいります。

さらに、放送コンテンツに係る取引や製作環境を適正化し、クリエイターへの適切な対価還元を実現するため、ガイドラインを整備し、その遵守・徹底を求めてまいります。

これらを通じて、クールジャパン戦略の実現に向け、しっかりと取り組んでまいります。

以上でございます。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

続きまして、体験価値化・高付加価値化、ブランディングの強化、分野横断・分野連携の強化につきまして、国土交通省、農林水産省、財務省より発表させていただきます。

まず、国土交通省よりお願いいたします。

○堂故国土交通副大臣 国土交通副大臣の堂故です。それでは、国土交通省・観光庁の取組について発表させていただきます。

資料5、表紙をおめくりいただいて、1ページ目はインバウンドの状況でございます。

訪日外国人旅行者数は、2022年10月の水際措置の緩和以来、堅調に回復し、2023年は2500万人を超えました。また、単月では昨年10月より7か月連続でコロナ前の水準を回復しています。

また、訪日外国人旅行消費額についても、2023年は5.3兆円となり、観光立国推進基本計画で定める目標を早期達成いたしております。

2ページ目を御覧いただきたいと思います。観光の体験価値化・高付加価値化の取組について御説明します。

2ページ左側は、我が国の観光資源をインバウンド向けに、特別な体験として提供する取組です。観光庁では、関係省庁と連携し、全国各地におけるコンテンツの創出を支援し

ています。

2 ページ右側は、高付加価値なインバウンド観光地づくりを集中的に支援する取組です。いわゆる外国人富裕層の地方への誘客を促進してまいります。

3 ページ目を御覧いただきたいと思います。分野横断、日本の魅力発信に関する取組についてであります。

3 ページ左側は、我が国の自然を活用するアドベンチャーツーリズムの推進に関する取組です。我が国の豊かな自然を深く体験してもらうよう取り組んでまいります。

3 ページ右側、JNTOによる万博を契機とした訪日プロモーションです。万博をきっかけに、日本の魅力を世界に知ってもらうべく、しっかりと情報発信してまいります。

国土交通省といたしましては、関係省庁とも連携しつつ、これらの取組を通して、「新たなクールジャパン戦略」を実行してまいりたいと思います。

以上です。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございました。

次に、農林水産省よりお願いいたします。

○武村農林水産副大臣 農林水産副大臣の武村展英でございます。当省の取組について御説明申し上げます。

資料6の1 ページ目を御覧ください。まず、農林水産物・食品の輸出促進です。

輸出促進につきましては、日本食・日本産食品のブランドの価値の向上を図るため、農林水産省とJFOOD0は、日本産食品のマスターブランドを作成し、市場調査をした上で、戦略的なプロモーションを行います。例えば、抹茶はテアニンを多く含むことなどを、健康意識の高い米国の消費者に訴求いたします。また、日本食・食文化全体の魅力を発信するため、複数品目を組み合わせたプロモーションも実施し、さらに、日本産のおいしさをそのまま海外の消費者に届けるため、新たな鮮度保持技術などのイノベーションの活用も推進いたします。

2 ページ目を御覧ください。SAVOR JAPANについてです。

訪日外国人に対して日本の魅力的な食や食文化体験を提供する地域を、農林水産大臣がSAVOR JAPANとして認定を行っております。今後とも、訪日外国人のニーズに対応する食体験コンテンツを提供するとともに、一元的な情報発信により、SAVOR JAPAN認定地域の魅力を更に高め、海外の消費者への日本の食への関心を高め、輸出につなげていくこととしております。

3 ページ目を御覧ください。農泊についてです。

農山漁村に宿泊し、食事や体験等を楽しむ農泊であります。意欲ある農泊地域に対して、観光資源の高付加価値化を進め、インバウンドも含めた富裕層に訴求するホスピタリティを磨き上げていきます。施設改修などによる宿泊等の単価向上の取組、また、DXによる宿泊経営の改善などへの支援により、農業体験などの関連消費や農山漁村の所得の向上も図ってまいります。

最後に、4ページ目を御覧ください。GI産品についてです。

その地域ならではの「ものがたり」を有するGI産品は、我が国の魅力を訴求する有力な観光資源でもあります。インバウンド市場の開拓・拡大に資する重要なコンテンツであると考えております。例えば山梨県身延町では、ガストロノミーツーリズムのモニターツアーにおきまして、地域で伝統的に栽培されてきたGI産品であるあけぼの大豆や、酒類のGIに指定された山梨のお酒を活用した観光プログラムを創出しています。

当省といたしましては、関係省庁と連携し、これらの取組を進めていきたいと考えております。今後も御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

以上です。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

次に、財務省よりお願いいたします。

○矢倉財務副大臣 財務副大臣の矢倉でございます。財務省・国税庁から日本産酒類の振興の取組について御説明したいと思います。

資料7の1ページ目を御覧いただきたいと思います。日本産酒類の輸出に関しましては、日本の食に対する国際的な評価の高まり等を背景に増加傾向でありまして、昨年の輸出金額は1344億円と、過去最高となった2022年に次ぐ水準となっております。今後とも一層の輸出拡大を図ってまいりたいと思っております。

2ページ目からは、特に日本産酒類の高付加価値化、ブランディングといった観点から御説明いたします。

まず、2ページにあるように、補助金によりまして、現地のニーズを踏まえた輸出専用商品の開発や、インバウンドを取り込むための酒蔵ツーリズムの取組を支援しております。

3ページ目を御覧いただきたいと思います。酒類の地理的表示、GIを活用することにより、各地の特色ある酒類が広く認知され、日本産酒類のブランド価値向上が図られていると考えており、引き続き、GIの普及・活用を推進してまいりたいと思います。

4ページ目を御覧いただきたいと思います。ユネスコ無形文化遺産への登録を目指している伝統的造りについては、本年12月にユネスコにおいて審議をいただく見込みであります。文化庁とも連携いたしまして、機運醸成や魅力発信に取り組んでまいりたいと思います。

日本産酒類の魅力を世界に発信し、海外における日本産酒類のファンを拡大・深化する余地がまだあると考えておりまして、「新たなクールジャパン戦略」を踏まえ、一層の取組を実施する必要があると認識しております。関係省庁の皆さんに感謝を申し上げますとともに、引き続きの御支援・御協力を何とぞお願い申し上げます。

以上です。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

続きまして、最後となりますけれども、発信力の強化につきまして、外務省より発表いただきます。よろしくお願いいたします。

○高村外務大臣政務官 外務大臣政務官の高村正大です。

外務省は、海外拠点において、現地で築いている知見や人脈といった強みを生かして、日本のコンテンツの発信に努めております。

例えば、海外で開催される漫画・アニメの大型イベントの際は、在外公館がクリエイターの皆様の協力を得て積極的に参加しています。また、自治体と連携して、和食文化の講演や試食・試飲等の機会を提供し、和食への理解と日本製品の輸出促進、インバウンド需要の開拓につなげる事業を実施しています。

国際交流基金は、国際文化交流に長く携わってきた経験を生かし、民間企業と連携して、世界各地で多様な文化事業を実施しており、現地で高い評価を受けています。

私自身も、配付資料２ページ目にあるパリ日本文化会館での特別展を視察し、現地の多くの方が来場して、日本の木造建築を支える伝統技術に触れる様子を拝見いたしました。映像コンテンツの配信プラットフォーム立ち上げなど、新たな取組も開始しています。

ジャパンハウスは、地の利を生かし、アカデミー賞関係者と日本の映画関係者とのネットワーキングの場を提供するなど、日本映画のハリウッド進出やアカデミー賞受賞を後押ししました。

さらに、岸田総理をはじめ、政府要人の海外訪問等の機会を捉え、伝統文化から漫画・アニメに至る様々な日本文化・コンテンツのトップセールスに努めています。

外務省は、新たなクールジャパン戦略の下、海外拠点の強みを生かし、今後も関係省庁、自治体、民間団体とよく連携して、日本コンテンツの魅力を発信すべく取り組んでまいります。

以上になります。

○佐野内閣府知財事務局次長 ありがとうございました。

それでは、内閣府知的財産戦略推進事務局長の奈須野から一言申し上げます。

○奈須野内閣府知財事務局次長 関係府省庁の副大臣・政務官の皆様方におかれましては、御説明いただきましてありがとうございました。

各府省庁のそれぞれの施策につきまして、政府一体となって連携を強化しつつ、今回策定されました「新たなクールジャパン戦略」を推進してまいりたいと考えておりますので、ぜひとも御協力いただきますようお願い申し上げます。

○佐野内閣府知財事務局次長 それでは、最後に、高市大臣から締括りの御挨拶をいただきたいと思っております。

プレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○佐野内閣府知財事務局次長 それでは、高市大臣から御発言をお願いいたします。

○高市クールジャパン戦略担当大臣 本日は、今月４日に４年半ぶりに策定した「新たな

クールジャパン戦略」における関係府省庁の施策について、政府一体となって着実に実行するために、特に注力していく取組は共有できましたね。また今後、PDCAを回していくためのキックオフとすることができました。

具体的には、クールジャパン関連産業の海外展開を2033年までに50兆円以上とする目標を達成しなければなりませんので、そのために、クリエイターを含めた官民協議会などを通じた官民一体となった取組の推進。それから、クリエイターの方々への支援や活動環境の整備。特に文部科学省も経済産業省も総務省もやっていただいています。しっかりお願いいたします。また、商品・サービスの高付加価値化・ブランディングの強化。アニメ、ゲーム、食などの分野を超えた連携の拡大。そして、日本ファンの拡大やブランド価値の向上に向けた情報発信の強化といった取組が重要であるという認識を確認できたと思います。

また、経産省から、クールジャパン機構につきましては、引き続き、経営改善に取り組みながら、堅実な投資を行っていく旨、御説明いただきました。

各府省庁の副大臣・政務官の皆様方におかれましては、この「新たなクールジャパン戦略」におけるそれぞれの施策の着実な実施に向けて、引き続き、しっかりフォローしていただきますよう心からお願い申し上げます。

本当に御多用の中、ありがとうございました。

○佐野内閣府知財事務局次長　ありがとうございました。

それでは、会議を閉会させていただきたいと思います。

関係省庁の皆様におかれましては、引き続き、クールジャパン戦略の推進に御協力を賜ればと思います。

本日はありがとうございました。

○高市クールジャパン戦略担当大臣　ありがとうございました。